【資料第 31 号】

「文京区アカデミー推進計画」素案　意見募集の結果

1　意見募集概要

（1）パブリックコメント

①募集期間

平成 22 年 12 月 15 日(水)から平成 23 年 1 月 17 日（月）まで

②意見提出数

2 人

（2）区民説明会

①開催日時

日時：平成 22 年 12 月 22 日（水）午後 7 時から 8 時 30 分まで

場所：文京シビックセンター地下 1 階　学習室

②参加者

4 人

2　意見総数

22 件（パブリックコメント 12 件、区民説明会 10 件）

「文京区アカデミー推進計画」素案説明会及びパブリックコメントのご意見

（No.1～12：説明会でのご意見、No.13～22：パブリックコメントでのご意見）

No.	該当項目・箇所	意見
1	P13 第１章　生涯学習	ロシア語など、幅広い言語の語学講座を開講してほしい。
2	P13 第１章　生涯学習	語学講座について、初級クラスは充実しているが、その後の中級、上級クラスが不足している。学習を継続できるよう、講座を充実させてほしい。
3	P13 第１章　生涯学習	区民が大学の講義を受講したり聴講したりできるような仕組みがあると良い。また、学生が区民向けに講座を実施するような機会もあると良い。
4	P13 第１章　生涯学習	現在、任意団体で活動しているが、活動のための場所を使用するための各種手続きにおいて、区役所のどの部署に行けば良いのかが分からない。手続きについて教えてもらえる機会があると良い。
5	P13 第１章　生涯学習	区で活動の支援をしてほしい。
6	P37 第３章　文化芸術	素案にある「伝統文化」の中には何が含まれているのか。
7	その他	（財）文京アカデミーと区との関係はどのようになっているのか。
8	事業について	事業の内容に、文京区にしかできない内容や特色が出ていると良い。
9	P25 第２章　スポーツ	生涯を通じて継続して行うことのできるスポーツがあると良い。
10	P72 Ⅲ　体系別アカデミー推進事業	「Ⅲ体系別アカデミー推進計画事業（平成22年度）」に事業が掲載されているが、さまざまな課で実施している事業を、今後、アカデミー推進部に集約していくのか。また、様々な事業を実施すると、カルチャーセンターと競合するのではないか。
11	知識や経験の還元について	区民が知識や経験を地域に還元するということは、講座を受講した人が地域に還元する仕組みをこれからつくるということか。
12	P２ ２　計画の位置づけ	基本構想の「緑に育まれた」の部分が、素案からは見えない。文京区の緑を残すための人材育成を、本計画で実施できると良いのではないか。
13	各施策について	施策ごとの全体計画がほしい： 施策ごとに目標を明確にして、そこに至る道筋をみせ、他の施策との関連を計り、過去の類似の施策の結果を活用できるようにする。過去は区の施策だけで終わったり、同じ事をちょっと変えて行ったり、縦割り的なもの、その施策をすること自体に意義を見出している事が多いと思う。相互効果、実施した結果が大切と思う。

No.	該当項目・箇所	意見
14	事業の継続性について	継続性がほしい: インタープリター事業は確か一回で終わっている。ぜひ次の世代の参加を考えてもらいたい。他の施策も類似なことが多いかと思う。区の事業の終了後(例：講習終了)、住民が継続的に行なえるように場所、環境等を公共で差し伸べていただきたい。
15	対象とする目標レベルについて	参加者と目標のレベル： 参加したがメンバーが大変高度な方が多いため初心者はくじけやすい。住民の多くは初心者で、その方ができるような工夫をお願いしたい。ちょうど学校のようなものです。卒業生が主体だと新入生は学校に行きづらくなります。講習開始時にいた方が全員講習を終了し次のステップも継続し、その方が次の世代を育てられるようにしたい。又、その施策としても目標も高すぎず、低すぎずを明示してはげみにしたい。底辺の初心者を引き上げていただきたいが、マニアやセミプロ級のような高度なレベルは公共の生涯学習の施策としては次の段階と思う。
16	モチベーションの維持･継続について	モチベーションを高め、維持する工夫。勉強をすることにより次の段階に進む証とか、外部からの賞賛など。また、ボランティアだから無償が当然という風潮ですが、別の方へ教えたときはちょっとしたものを出すなどの工夫をお願いします。そのような資金はそれをしてもらうことによって利益を受けるところから得る－たとえば、観光ガイドをして商店街から頂くなど。(他区では行っています)観光関連では生涯学習／ボランティアの方と経済的な事業者との調整が重要かと思われます。
17	P62 第５章　国際交流	国際交流を進める機会つくり： 「官」が企画してやるものには何か臭みがあって素直に楽しめない。現在やられているものをつぶさに観察し、良いものに援助し、伸ばしていくようにしてはどうか。卑近な例を挙げると、私の近所に○○○○があり、これが毎年秋「○○○○」で「秋祭り」と称して学生の母国の食品を並べた屋台を出し、舞台を作り歌や踊りをやっている。学校としてどのくらいの費用をかけているのか知らないが、学生も楽しそうだし、お客さんも楽しそうに集まっている。おそらくどこの日本語学校や大学でも規模の差はあれやっているのではないだろうか。これらの行事を観察し、面白そうなものには「上から目線」でなく、協力させてくれないかと言う形で進めてはどうか。

No.	該当項目・箇所	意見
18	P62 第５章　国際交流	言語の支援： 現在〇〇〇〇と言う名の下に、毎週外国人（主に留学生）と日本語の会話を交わしているが、これも外国人の日本理解の一助となっているとは自負している。ただし日本語教師の経験の無いもの、或いは経験・資格はあっても学校に通うのと違い、学習者は継続的に来るわけでないので、基本からの日本語教育は難しい。このため転勤家族の妻子で日本語学校へも通えない人への対応は出来ていないのが一番の気になるところである。必要を感じながらもなぜ出来ないか、人は居る、意欲はある、場所がない、システムがないと言うところでないか。区内の何箇所かの学校の教室を使用し、授業が終わってから１時間か２時間生徒及び母親を対象に日本語教室を開く。この運営は学校でも区役所でもなく、例えば〇〇〇〇が窓口となって学校・学習者・ボランティアの橋渡しをする。教科書・印刷物等の費用は区が補助する。ボランティア人件費は原則奉仕（交通費くらいは配慮）。このようなシステムをまず実験的に走らせてみて、色々改善していく。失敗を恐れずトライアル＆エラーを繰り返さなければ新しいものは生まれない。まず一歩が大切。
19	P62 第５章　国際交流	『来日し地域に住む外国人が快適に暮らし環境づくり』を目指すのであれば、語学支援は必須のソフトインフラです。現在は区民ボランテイアが日本語教室やその他の言語支援を自主的に行っていますが、この活動を今後も安定的に継続していく為には、以下のような行政の支援が是非とも必要だと考えます。 1.　日本語ボランテイアの養成のＰＲ等（ボランテイアの高齢化に対応する施策） 2.　教室用施設の確保（教室は同じ場所で開催するのが望ましい） 3.　教材、備品等の保管場所の確保（教材、学習者名簿ほかかなりの量になる） 4.　区立小中学校への就学児童・生徒に対する日本語初期教育 （現在、教育委員会による 60 時間の補助はあるが、60 時間の主に通訳的役割にとどまる支援では不十分だという声が、教育現場の先生や保護者の方々から届いている。そのあとの更なる支援を考える必要があるが、区内の日本語ボランティア教室や、留学生等と連携することにより、改善の道が見えてくるのではないか。最近、特にボランティア教室に支援を求めてくる子どもや保護者が増加している。） 第２項の「国際交流を進める機会作り」（基本的な方向）の中に『国際交流団体や区民等が、主体的に国際交流事業を継続できるよう、行政が支援する仕組みを検討します。』とあるが、上記のようなことを具体的に実現させることが、まさにこれではないでしょうか。 また第３項。課題の整理の中に「外国人の日本語習得支援を充実させることが求められます」とあり、更に「外国籍児童、生徒のほか家族への日本語習得支援について検討します」とあります。是非具体的に前進することを期待します。

No.	該当項目・箇所	意見
20	P62 第５章　国際交流	文京区の「第５章　国際交流」を読みまして感想と要望を下記に記します。 私たちは、日本語ボランティア教室を運営し活動しています。日本で暮らす以上、“日本語の習得”は欠かせません。まず私たちの活動について、以下を要望します。 （要望） 1.　日本語ボランティアをやる場所の提供・確保 2.　資料、テキストブックなどの保管場所の提供・確保 3.　日本語ボランティアの人材の確保と育成 4.　資金的な面も支援を積極的にお願いしたい。（テキストの購入、部屋代の費用、たまにはレクレーションの費用など） 5.　外国人に対しての文京区の良さのＰ・Ｒ（活動支援が全く不足しています。） なぜ文京区が我々の活動にあまり協力的でなかったかが「第5 章　国際交流」を読むと良くわかります。これはこう言う事なのです。外国人に参加して貰って（日本人の輪の中に入って貰って）外国人から日本人（文京区民）が教わると言う気持ちの方が強いからです。すべての施策をみれば理解できます。 日本語ボランティアのメンバーの気持ちは、これとは逆で、外国人に「日本語」を学習して貰い日本の習慣、慣習や文化を会得して貰うことの方が重要と思っているのです。（62 ページ参照、68 ページ参照）お互いが学び合うという対等、フィフティ・フィフティの姿勢であることが必要だと考えています。でも外国人を「お客様」に扱う区の考えがこの案から感じられます。こういうことですから、区の人達の「日本語ボランティア」に対する理解度は 10％ぐらいなものでしょう。この辺を理解して協力して貰わないと、いつまで経っても我々の不満は残ってしまいます。外国の人たちが、ここで住み、働き、勉強するために、日本語や日本の習慣などを学んでもらい、お互いに理解し協力することが重要です。そこに私たち同じ地域に住むボランティアが活動して、外国の方々と関係を築く意味があるのです。単なるサークル活動とは違います。本当に行政の理解が欲しいものです。お題目だけでは人は動きません。
21	P62 第５章　国際交流	日本語 ZERO、又はそれに近しい対象の者（子供）への学習面のサポートが学校へ丸投げ状態で、行政がケアしている部分があまりにも少なさすぎる。（通訳配置の時間が余りにも短すぎる）。またそれによる、子供の精神的苦痛やダメージを早急に緩和するべき処置を望みます。 上記の補足として、行政からの情報提供がかなり少ない。（教育現場と行政の温度差があるのでは？）子供の受験や進路に関しての情報が少なく、日本人の子供レベルの情報の受け取りも未確認のままが多い。以上を踏まえて、外国人の孤立感を無くし、『外へ出るチャンス』の手助けをするのが当ボランティアの存在価値だと思っております。

No.	該当項目・箇所	意見
22	P62 第５章　国際交流	外国人が快適に暮らせる環境作りの課題として、文京区に住民登録した外国人には、まず、災害時や非常時に、実際にどのような行動をとればよいかを、学んでもらうことが必要ではないでしょうか。 当会では、年に１度、防災課や消防署の協力を得て、外国人のための防災セミナーを行っていますが、災害はいつ起こるかわかりません。住民登録したら、出来るだけ早い機会に、防災について学んでもらえるよう、年間を通してセミナーのような企画を提供できることが望ましいと考えています。また、防災 DVD を作って、区内の施設で手軽に視聴できるようにするのも、一つの方法だと思います。 外国人の中には、地震そのものを知らない、避難所という存在も理解できないという人が多くいます、多言語化された防災パンフレットは、基本的な情報は伝わるかもしれませんが、実際の避難所運営訓練に、一般区民に交じって参加してもらうことが何より重要ではないかと思います。 行政、地域防災協議会、外国人支援団体等が協働で、外国人の防災意識を高めてゆくことが、外国人だけでなく、一般区民にとっての安心、安全につながるのではないかと思います。